Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 23第36号
2023年（令和五年） 12月22日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

12/7～12/13のNYMEX・WTI先物市場は68.61～71.32ドルの範囲で推移した。

12月14日は、パウエルFRB議長の来年の利下げ転換示唆発言を好感、続伸した。この発言で為替相場ではドル安が進行、原油先物の割安感、また、最近の安値に対する買い戻しの動きもあった。1月物終値は前日比2.11ドル高の71.58ドル。

週末15日は、この日発表の11月米国製造業景況指数が軟化、また、ニューヨーク連銀総裁は、利下げ転換観測を行きすぎとけん制、3日ぶりに反落した。1月物終値は同0.15ドル安の71.43ドル。

週明け18日は、英BPがタンカーの紅海航行の見合わせを発表するなど、イエメンの親イラン武装組織フーシ派の商船攻撃を懸念、また、ロシアのノバック副首相が追加の石油輸出削減を検討中との発言もあり、反発した。1月物終値は前日比1.04ドル高の72.47ドル。

19日は、紅海におけるフーシ派による商船攻撃に関し、オースティン米国防長官は米軍を中心に10カ国の有志連合で船舶護衛を行うと発言、紅海経由の石油供給に対する懸念の高まりから、続伸した。サンフランシスコ連銀総裁の来年の利上げに関する景気・雇用配慮発言も好感され、値上がり要因となった。1月物終値は、前日比0.97ドル高の73.44ドル。

20日は、引き続き、紅海経由の石油供給懸念から、続伸した。ただ、この日の米国石油在庫報告で、原油は市場予想に反する積み増し、石油製品も予想を上回る積み増しとなり、需給緩和感を拡大、また、為替市場でドル高が進行、原油先物割高感から、上値は重かった。この日から取引の中心限月となった2月物終値は前日比0.28ドル高の74.22ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場（2月渡し）は、12月7日～13日の間、74.30～77.30ドルの範囲で推移。12月14日75.60ドル、15日76.50ドル、18日76.70ドル、19日76.70ドル、20日77.20ドル。

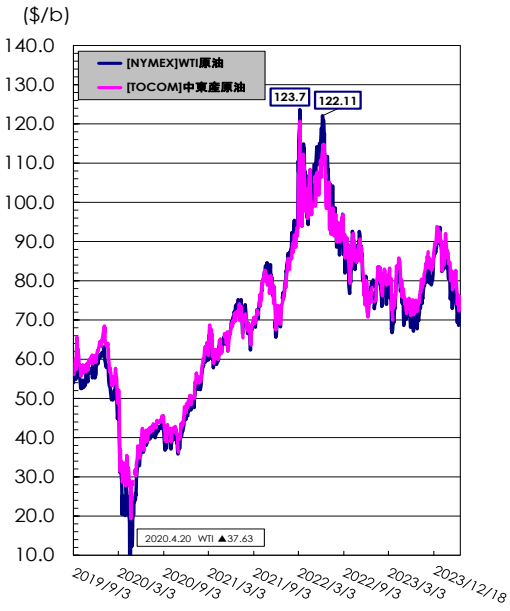
対ドル為替レート（TTM）は、12月7日～13日の間、143.25～147.17円の範囲で推移。12月14日142.49円、15日142.50円、18日142.20円、19日142.69円、20日144.03円。

財務省が12月20日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は88,719円で前旬比29円高、ドル建て93.50ドルで前旬比0.33ドル安、為替レートは1ドル/150.86円。また、11月月間の原油輸入平均CIF価格は88,741円で前旬比1,933円高、ドル建て93.85ドルで前旬比1.15ドル高、為替レートは1ドル/150.33円。

そのような中で、12月18日時点の価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同横ばい（18リットルベース）。ガソリンは6週ぶりに値上がりが止まり、軽油は7週連続の値上がり、灯油は4週ぶりに値上がりが止まった、ガソリンの全国平均価格は175.1円となった。

12月21日～27日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は13.0円（補助金がない場合の次週予想価格187.8円で、従来の基準価格168円から高補助率適用価格185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で2.8円）となった。

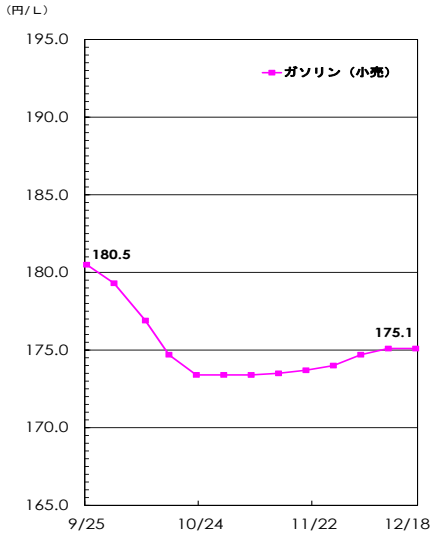
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	12/10 ～ 12/16	3,004	▲ 45	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	83.6	▲ 1.3	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	12/16	11,472	▲ 261	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	12/18	76.02	▼ -0.27	▲ 0.7
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	12/18	72.47	▲ 1.15	▼ -2.7
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	11月下旬	93.50	▼ -0.33	▼ -6.96
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	88,719	▲ 29	▼ -3,700
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	150.86	▼ -0.57	▼ -4.61
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	12/18	143.20	▲ 3.20	▼ -5.98



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/10 ～ 12/16	828	▼ -107	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	764	▼ -7	▼ –
	輸出		〃	92	▲ 19	▲ –
	在庫		12/16	1,707	▼ -28	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/12 ～ 12/18	78.4	▼ -0.5	▲ 4.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/12 ～ 12/18	81.0	▲ 0.2	▲ 2.0
		(TOCOM/中部)	12/18	79.0	➡ 0.0	▲ 4.4
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/18	175.1	➡ 0.0	▲ 7.0

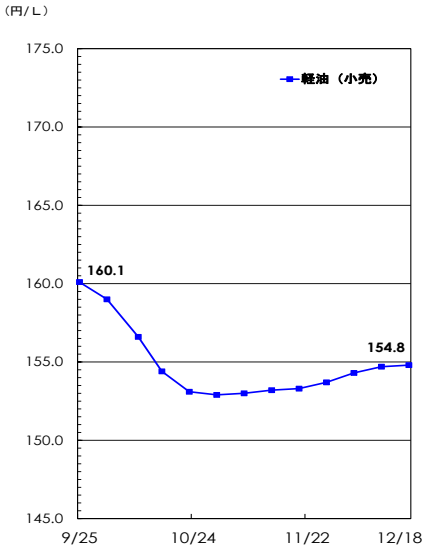
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

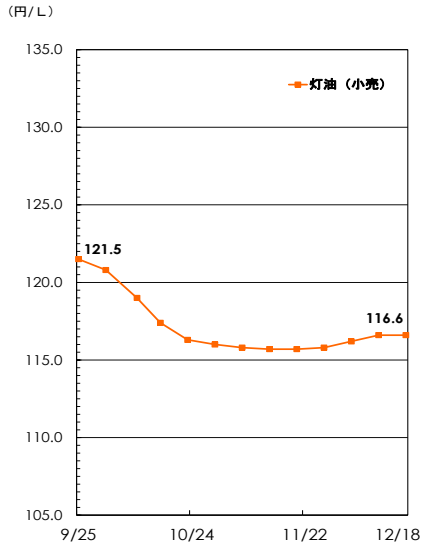
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/10 ～ 12/16	679	▲ 11	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	590	▲ 19	▼ –
	輸出		〃	73	▼ -26	▲ –
	在庫		12/16	1,344	▲ 16	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/12 ～ 12/18	79.5	▼ -0.2	▲ 3.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/12 ～ 12/18	82.3	▲ 0.5	▲ 5.1
		(TOCOM/中部)	12/18	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/18	154.8	▲ 0.1	▲ 6.6

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/10 ～ 12/16	312	▲ 36	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	337	▼ -35	▲ –
	輸出		〃	90	▲ 90	▲ –
	在庫		12/16	2,611	▼ -115	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/12 ～ 12/18	81.5	▼ -0.1	▲ 4.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/12 ～ 12/18	81.9	▲ 0.7	▲ 2.4
		(TOCOM/中部)	12/18	81.0	▲ 1.0	▲ 2.5
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/18	116.6	➡ 0.0	▲ 5.4



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（12月14日～20日）のWTI石油先物市場は、米国の来年の利下げ転換観測から、14日は続伸の71.58ドルで始まったが、週末15日は3日ぶり反落、週明け18日は、紅海のタンカー安全航海への懸念、石油供給不安から反発、3営業日続伸し、20日は74.22ドルで終わった。

12月20日発表の15日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、原油在庫が前週比290万バレル増と市場予想（230万バレル減）に反する積み増しで、ガソリン在庫は同270万バレル増、中間留分在庫も同150万バレル増と、各々市場予想（120万バレル増、50万バレル増）を上回る積み増しで、米国の石油需給の緩和感が拡大した。

EIAによると、12月18日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比8.3セント安の1ガロン3.053ドル（115.4円/㍑）と13連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比9.3セント安と8週連続の値下がりの1ガロン3.894ドル（147.1円/㍑）。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、12月15日時点で、前週比2基減の501基と2週連続で減少した。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2023年12月10日～12月16日に休止したトッパー能力は10.5万バレル/日で、前週に対して横ばいだった（全処理能力は323.0万バレル/日）。

原油処理量は300.4万klと、前週に比べ4.5万kl増加。前年に対しては17.1万klの減少。トッパー稼働率は83.6%と前週に対して1.3ポイントの増加、前年に対しては2.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/11.4%減、ジェット/11.5%増、灯油/12.9%増、軽油/1.6%増、A重油/16.8%減、C重油/0.9%増。今週のC重油の輸入は9.9万kl（前週比9.9万kl増）。軽油の輸出は7.3万kl（前週比2.6万kl減）。

出荷（輸入分を除く）はガソリン、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は76.4万kl（対前週0.9%減）と2週振りに減少した。ジェット6.5万kl（対前週16.7%増）、灯油33.7万kl（対前週9.3%減）、軽油59.0万kl（対前週3.5%増）、A重油24.0万kl（対前週5.0%増）、C重油17.2万kl（対前週14.9%増）。

（単位：千KL）

	今週 (12/10 ~ 12/16)	前週 (12/3 ~ 12/9)	前週比	
ガソリン	764	771	▼ -7	(-1%)
ジェット燃料	65	55	▲ 10	(18%)
灯油	337	372	▼ -35	(-9%)
軽油	590	571	▲ 19	(3%)
A重油	240	229	▲ 11	(5%)
C重油	172	150	▲ 22	(15%)
合　計	2,168	2,148	▲ 20	(1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

12月16日時点の在庫は軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは170.7万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては14.3万kl少ない。

灯油は261.1万kl、前週差11.5万kl減。前年に対しては3.6万kl多い。

軽油は134.4万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては20.0万kl少ない。

A重油は71.3万kl、前週差2.6万kl減。前年に対しては4.7万kl少ない。

C重油は181.2万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては4.9万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (12/16)	前週 (12/9)	前週比	
ガソリン	1,707	1,735	▼ -28	(-2%)
ジェット燃料	786	790	▼ -4	(-1%)
灯油	2,611	2,726	▼ -115	(-4%)
軽油	1,344	1,328	▲ 16	(1%)
A重油	713	739	▼ -26	(-4%)
C重油	1,812	1,786	▲ 26	(1%)
合　計	8,973	9,104	▼ -131	(-1.4%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

12月12日～18日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、元売会社の卸価格建値は2.5円の値下がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額14.7円を加え、今週の補助金13.0円を差し引いた、12/21～12/27の実質卸価格は0.8円の値下げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

12月12日～18日の製品スポット市況は、12月5日～12月11日平均と比べ、灯油と軽油の海上・三品の先物で値上がりしたが、三品の陸上・ガソリンの海上で値下がりした。

直近週（12/12～12/18）の陸上スポット価格平均値は、前週（12/5～12/11）比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油も0.1円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（12/12～12/18）に、前週（12/5～12/11）比で、ガソリンは1.0円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油も0.7円の値上がり、軽油も0.5円の値上がりだった。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (12/12 ~ 12/18)	前週 (12/5 ~ 12/11)	前週比
スポット価格	レギュラー	78.4	78.9	▼ -0.5
	灯油	81.5	81.6	▼ -0.1
	軽油	79.5	79.7	▼ -0.2

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週 (12/12 ~ 12/18)	前週 (12/5 ~ 12/11)	前週比
先物価格	レギュラー	81.0	80.8	▲ 0.2
	灯油	81.9	81.2	▲ 0.7
	軽油	82.3	81.8	▲ 0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値　（12/12～12/18実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	▲ 0.2	▼ -0.2
灯油	▼ -0.1	▲ 0.7	▲ 0.3
軽油	▼ -0.2	▲ 0.5	▲ 0.1
A重油	▼ -0.3		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

12月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの175.1円、軽油は0.1円高の154.8円、灯油は18㍑ベースで横ばいの2,099円（1㍑ベースでも横ばいの116.6円）。ガソリンは6週ぶりに値上がりが止まり、軽油は7週連続の値上がり、灯油は4週ぶりに値上がりが止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが23都道府県、横ばいは長野等3県、値下がりが21県だった。全国最安値は徳島県の169.4円、その次は愛知県の169.6円であった。他方、最高値は長野県の184.2円。最も値下がりしたのは沖縄県（同2.3円安）、最も値上がりしたのは愛媛県（同1.6円高）だった。

次回調査時（12/25）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

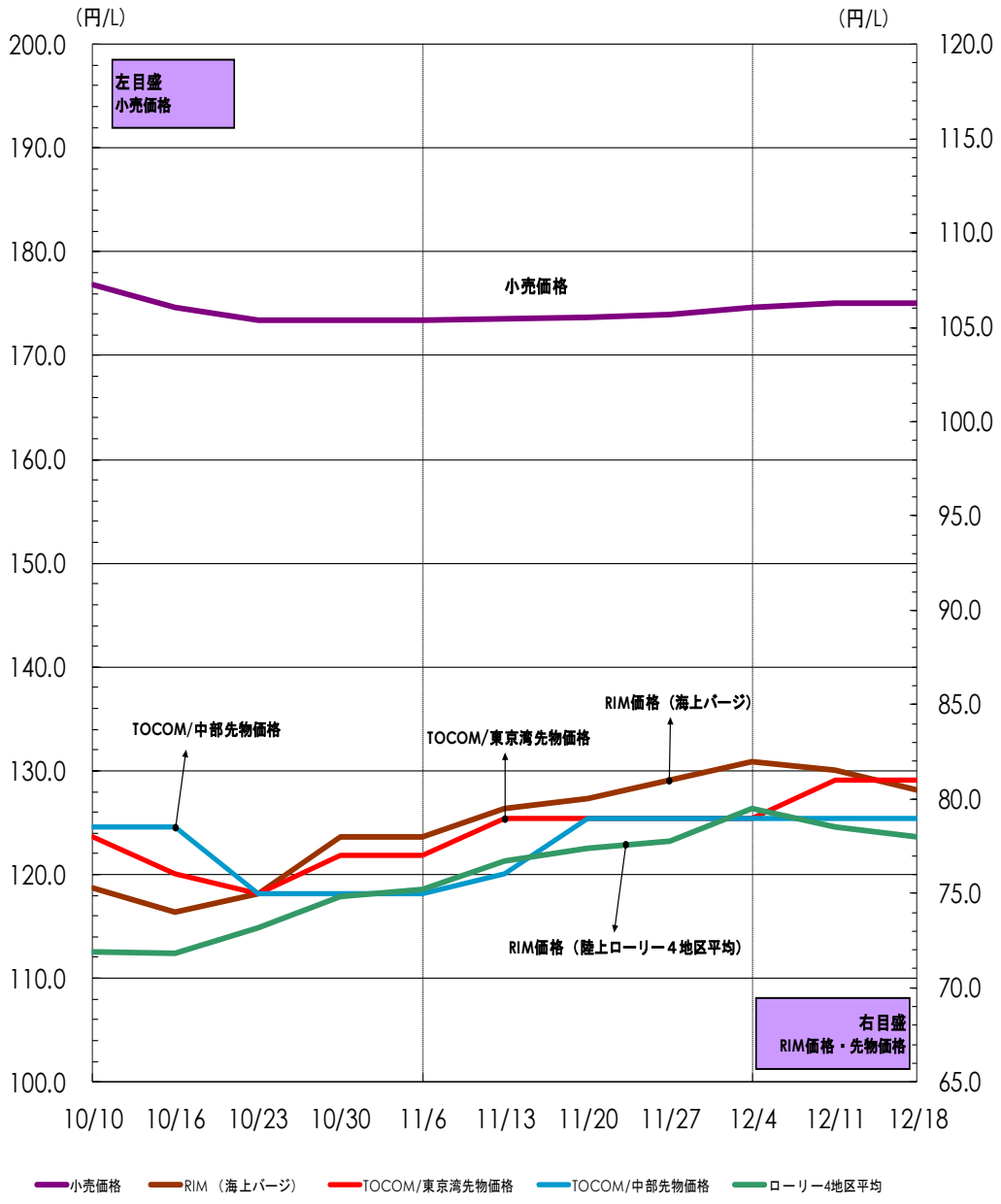
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週 (12/18)	前週 (12/11)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	175.1	175.1	➡ 0.0	23/9/4	186.5
	灯油	116.6	116.6	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	154.8	154.7	▲ 0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/10/10　～　2023/12/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格･TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2023第37号）の公表は、12/29（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。